

東海  
道中

膝栗毛

十編

下

13 遠へ  
1164  
23



13  
1164  
23

滑靴有五十三駄拾篇卷之五

かくて三人いそれよりまきしり

小半勢老翁おまゝしては内神ふあは

ととこぶ及まぐうのあはりい引もきうはこふ

大そふうの男まのややまこつれさるがさん

きこらてざんごやのうごよまとぬりおめく

うのざんごひとくづりめとめんよこざん入

まやまて出うけこの大だんの名いかにた





















とうとう今やわが年々まぢきん先事せんじ務むむしてせうりせうりをせうりせうり  
まぢきんまぢきんの神は天神てんじんのちるる神代じんたいの神かみ日ひ句くのま  
むすのむす櫛くしのくし穂ほ系けい系けいよりありありありありたれぬたれぬひて高たか社のしゃのの神かみ  
水みづのの神かみ功こう皇こう后ご元げん十じゅう一いち年ねん幸さい卯みづ月げつ九く三さん日にちとる  
氏うぢ社しゃのの底そこ筒つつ男おとこ命のみこと中なかつ筒つつ男おとこ命のみこと表うへ筒つつ命のみこと神かみ功こう  
皇こう后ごもれなりもれなり按あ社しゃ未み社しゃとてとて三さん十じゅう余よ果くわ出で疑ぎ  
とてとてつつるるわわりりままりり高たかのの社しゃよよぬぬららつつてて  
ててままりりつつてて

海上かいじやうとまのりつぬつる神かみがまや  
つとあざやうあざやうつとああらら並なみね  
和わらうらうとああと出でううけけてて楽らく天てんの  
形かたちとよよとせせししままししよよのの神かみ  
かかくくはは社しゃ内ないととめめららるる系けい心こころ派はすすけけままががああまま  
ししままとと出でるるのの後あとのの系けい心こころ派はすすけけままががああまま  
ととままりりつつててたたままををややゆゆりりととままりりつつててたたままををやや  
ととままりりつつててたたままををややゆゆりりととままりりつつててたたままををやや  
ととままりりつつててたたままををややゆゆりりととままりりつつててたたままををやや  
ととままりりつつててたたままををややゆゆりりととままりりつつててたたままををやや







Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat difficult to decipher due to the cursive style and the age of the document.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. The text is somewhat difficult to decipher due to the cursive style and the age of the document.

























